

企業名： 世紀東急工業株式会社

レポート名： コーポレートレポート2022

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

よくできる。コーポレートレポートにて2030年までに「人の成長と企業の成長を両立し、持続可能な社会に貢献する、真に強靱な会社」となることを目標としており、それを達成するために中期目標として五つの戦略を掲げていた。その五つについて、具体的にどのような戦略をとり、どのような姿を目指すのか細かく説明していた。また、数字で表せるのについては数値目標をしっかりと掲げていた点も、具体的にどこまで目指しているのかを理解できる良い指標となっていて、分かりやすかった。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

よくできる。現在社会にある課題を挙げ、そこにどのように役立てるかを具体例を用いて説明している。例えば、少子化、人口減少という問題については、コンパクトシティを推進することに役立てる、とある。また、この会社が所有している財務、人的、物的、知的、社会関係、自然資本がそれぞれ具体的に書かれていた。強みのひとつとして挙げられていたのが、建設事業と、舗装資材製造販売事業のシナジーであり、建設事業の仕事を受注してから、材料を仕入れ、建設し、修繕維持をするという循環の中に上手くハマり、好循環を生み出せるのだと、その強みを理解できた。その他にも、事業創設当時から高い技術力があり、さらに生産性を向上するために管理システムであるDXシステムの開発、導入や脱炭素社会実現に向け材料作成時に排出されるCO<sub>2</sub>を減らす工程を考案するなどSDGsを意識したことに取り組んでいるため、技術力と技術への挑戦的な姿勢を理解でき、技術力を強みとしていくことが確信できた。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

できる。今までも、そしてこれからの社会では環境に配慮した技術に注目される。世紀東急工業株式会社は、新たな技術を研究、開発することに積極的であり、2で述べたようにすでに脱炭素社会実現に向け新技術をすでに発明していることから、研究開発の実力は高いと考えられる。また、年間五十億を研究開発に回すと書いてあり競争優位性の持続性があると理解できる。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

思わない。社員が働きやすい環境づくりを目指し、時間外労働時間を減らし、社員教育や資格試験へのサポートなどを手厚く行うと説明されていた。しかし、その教育を受けたり資格

を取ることでどのような価値を生み出せる人になれるかの具体的な説明がなく、人的資本の価値向上につながるのかどうか疑問が残った。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

全体として、世紀東急工業株式会社が目指す姿、現状とそのギャップ、目標達成に向けた取り組みがわかりやすく説明されており、ただ理想を掲げるだけではないと感じられる報告書だった。特にわかりやすかったところを挙げると、グラフや図、具体例などが効果的に使われており、目標への中期目標が具体的に設定されていたことから、成長戦略についてとてもわかりやすく説明されていた。また、競争優位についても社会から求められることに、どのような資本があって、どのように貢献していくかが一つの図にまとまっており情報量が多かったが整理されていたので、理解しやすかった。そして、目標達成に向けた取り組みとして良いとはいえない結果も公開するという情報開示への姿勢に好感が持てた。しかし、従業員の働きやすい環境づくりの説明の時に、労働時間や産休取得数などのデータで成果が示されていたが、働きやすさを考える場合は客観的なデータだけでは、その結果を十分に反映できていないと思う。労働環境への従業員個人の実感をアンケートにとって、それも載せた方が、実際に意味ある取り組みをしているか理解しやすいのではないかと思った。